

保護者の皆様

札幌市立新琴似南小学校
校長 小林 知広

全国学力・学習状況調査の結果報告について

令和8年度の「全国学力・学習状況調査」（4月23日実施）についての結果をまとめました。先日、6年生には個人票を配付しております。今回の結果報告もあわせて御参照ください。6年生児童の調査結果ではありますが、本校全体の課題として捉え、授業改善や学級経営に活かしてまいります。なお、この内容は、本校ホームページでもご覧いただけます。

○国語

5項目の内容について記載（言葉の特徴や使い方に関する事項、情報の扱い方に関する事項、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）

本校の概要	課題	改善の方向
「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ▼全国平均を下回っている。 「情報の扱い方に関する事項」 ▼全国平均を下回っている。 「話すこと・聞くこと」 ▼全国平均を下回っている。 「書くこと」 ▼全国平均を下回っている。 「読むこと」 ▼全国平均を下回っている。	複数の情報同士がどのような関係（理由・事例・因果関係など）にあるのかを、図や表、矢印などを用いて整理・把握する力に大きな課題が見られる。（情報の扱い方に関する事項）	文章中の複数の叙述や語句について、思考ツールを使って「比較」「因果」「具体と抽象」の関係を図に整理する活動を位置付ける。友達のメモやノートの図示を見比べ、「どのようにつながると分かりやすいか」を検討させることで、情報の構造化スキルを育む。

○算数

5項目の内容について記載（数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用）

「数と計算」 ▼全国平均を下回っている。 「図形」 ▼全国平均を下回っている。 「測定」 ▼全国平均を下回っている。 「変化と関係」 ▼全国平均を下回っている。 「データの活用」 ▼全国平均を下回っている。	直方体や立方体の面や辺の特徴を正しく捉えることや、体積の意味・求め方を理解して筋道立てて説明することに課題が見られた。（図形）	直方体や立方体の模型を実際に触れたり、1 cm ³ の積み木を並べたりする操作活動を日常的に取り入れ、体積の原理を視覚・体感的に理解させる。また、箱を開いて展開図と見比べたり、見取り図に長さを書き込んだりする活動を通して、直方体を構成する面や辺の関係を確実に把握させます。
--	---	---

記号の見方（全国平均と比べて）
△上回っている +3.1 ポイント以上
◇ほぼ同程度であるが、やや上回る 0～3 ポイント以内
◆ほぼ同程度であるが、やや下回る 0～3 ポイント以内
▼下回っている -3.1 ポイント以内

○国語、算数、理科の経年変化

※記号の見方については、前頁参照。

国語	R3	R4	R5	R6	R7	R8
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	▼	▼	▼	△	▼	▼
(2) 情報の扱い方に関する事項	▼	▼	▼	◆	▼	▼
(3) 我が国の言語文化に関する事項	▼	▼	▼	◇	▼	▼
A 話すこと・聞くこと	▼	▼	▼	◇	◆	▼
B 書くこと	▼	◆	▼	△	◆	▼
C 読むこと	▼	▼	▼	△	◆	▼

算数	R3	R4	R5	R6	R7	R8
A 数と計算	▼	▼	◆	△	▼	▼
B 図形	▼	▼	▼	◇	◆	▼
C 測定	▼	▼	▼	▼	▼	▼
C 変化と関係	▼	▼	▼	◇	◆	▼
D データの活用	▼	▼	◆	△	◆	▼

理科（3年おきに実施）	R4	R7
A 区分「「エネルギー」を柱とする領域」	◆	▼
A 区分「「粒子」を柱とする領域」	▼	◆
B 区分「「生命」を柱とする領域」	▼	▼
B 区分「「地球」を柱とする領域」	◆	◆

国語、算数、全ての教科で全国平均を下回っていた。改善の方向は先に示したが、「学ぶ力」を育成していくためにも、全ての教育活動の中で、AAR サイクルの視点を基にした課題探究的な学習を推進、研修を重ねていく。

※AAR サイクル…札幌市では OECD が提唱する教育の枠組み「ラーニング・コンパス 2030」に基づいた学習プロセス Anticipation（見通し）、Action（行動）、Reflection（振り返り）を基に課題探究的な学習を推進してきている。

成果（児童質問の中で肯定的な回答の多い質問項目について）

◆ 温かい家庭環境と日頃の対話（大きな成果）

- 勉強についての対話が活発 学校での勉強についてご家族と話す児童が、全国や全道と比べても際立って多く見られます。日頃からのご家庭での関心と温かい声かけが、子どもたちの学びを支えています。
- 悩みを打ち明けられる安心感 学校での悩みや困りごとについてもご家族と対話できている児童が多く、ご家庭が子どもたちにとって安心して自分を出せる確かな拠り所となっています。

◆ 豊かな思いやりと高い規範意識

- 困っている人を助ける行動力 困っている友達を助けてあげようとする優しい気持ちを行動に移している子どもたちが、全国平均を上回る高い水準で育っています。
- 互いを大切にする心といじめを許さない姿勢 友達の考えを大切にしながら協力する姿勢や、いじめを決して許さないという確かな規範意識が子どもたちの間にしっかりと根付いています。
- 日々の生活での充実感 普段の生活の中で幸せを感じている子どもが多く、前向きで健やかな気持ちで毎日を過ごしています。

◆ 学びへの前向きな意欲

- 学びの意義への共感と先進的な取り組み 国語などの学習が将来役立つと前向きに捉えて授業に向かっています。また、タブレット端末を活用した家庭学習にも積極的に挑戦する姿が見られます。

課題

児童質問の中で肯定的な回答の 少ない質問項目について

- ◆授業での「分かる実感」と学習への粘り強さ
 - ・日頃の授業において「よく分かった」という手応えをもちきれていない様子や、難しい課題に直面した際に「最後まであきらめずに粘り強く取り組むこと」に苦手意識を感じている姿が見られた。
- ◆自分の考えを整理して表現する力
 - ・文章や資料から必要な情報を読み取って整理することや、自分の考えの理由を分かりやすく文章や言葉で伝えることに課題が見られた。
- ◆学校での相談のしやすさと自己肯定感
 - ・困りごとや不安を抱えたときに学校の先生へ相談することにためらいを感じていたり、自分自身のよさに自信をもちにくかったりする傾向がうかがえます。

改善の方向

- ◆AAR サイクルに基づく「見通し」と「振り返り」の定着
 - ・学習の始まりに見通しを持ち（Anticipation）、終末には「何が分かり、何がつまづきだったか」を見直す振り返り（Reflection）を日常化していく。つまづきをそのままにせず、自らの学びを調整して次の学習につなげる力を育てる。
- ◆ペア・グループによる協働的な推敲（相互アドバイス）
 - ・児童同士で文章やメモを読み合い、「理由が相手分かりやすく伝わっているか」「必要な情報が揃っているか」を確かめ合い、修正し合う推敲の場を設定していく。
- ◆教員からの日常的な承認と個別対話の機会確保
 - ・児童が「先生は自分の良さを見てくれている」と実感できるよう、学習や学校生活の小さな成長や頑張りのプロセスを捉えて具体的に伝える声かけを引き続き継続していく。

※なお、札幌市 HP より札幌市全体の結果がご覧いただけます。

[全国学力・学習状況調査／札幌市 \(city.sapporo.jp\)](http://city.sapporo.jp)